

特別養護老人ホーム 溪山荘

(併設事業所) 溪山荘ショートステイ
溪山荘デイサービスセンター

特別養護老人ホーム 第2溪山荘ぼっぼ

(併設事業所) 第2溪山荘ぼっぼショートステイ
第2溪山荘ぼっぼデイサービスセンター
養護老人ホーム 萩の苑
敬仁会ヘルパーステーション
敬仁会24訪問看護ステーション

地域密着型特別養護老人ホーム 第3溪山荘あおぞら

(併設事業所) 第3溪山荘あおぞらショートステイ
第3溪山荘あおぞらデイサービスセンター
社会参加型通所介護ネイバース

あかり苑・あゆみ

グループホーム あかり苑
小規模多機能型居宅介護 あゆみ

ひなた・いっぷく

グループホーム ひなた
小規模多機能型居宅介護 いっぷく

グループホーム まんさく

福祉サービス事業所 野坂の郷

就労継続支援B型
生活介護
特定相談支援フラット

敦賀市立子ども発達支援センター バラレル

児童発達支援
保育所等訪問支援
放課後等デイサービス

福井県発達障がい児者支援センター スクラム福井

発達障害児相談・就労支援
小児慢性特定疾病児童等自立支援相談所

神宮前ぼっぼ

企業主導型保育園
放課後等デイサービス

歯科診療所 ななクリニック

敬仁会 介護相談センター

敬仁会 法人本部



第2溪山荘
ぼっぼ



第3溪山荘
あおぞら



グループホーム
まんさく



野坂の郷

KEIJINKAI
Social Welfare Corporation
Since1986

KEI

JIN

社会福祉法人 敬仁会事業報告
2025

KAI



☑ 理事長挨拶

初代理事長が示した理念の一部に、次の一文があります。

「長年に亘って、国家や社会、家庭の発展・礎のために多大の貢献をされてきた高齢者に対して、心から敬意を表し、敬愛し、尊厳のある生活の実現を目指します。」

文言的に高齢者福祉に特化した文章であり、現在、高齢者福祉の他に歯科診療所・障がい福祉事業・保育園事業を運営するに至り、敬仁会の理念は、「困っているを支えるために」に変更されました。

しかし、冒頭の一文は高齢者福祉に限らず、あらゆる福祉を支える基礎となる考え方です。

何かに困って敬仁会を利用されているすべての人の人生には意味がある。

だからこそ、心から敬意を表し、敬愛し、尊厳を守る。

職員一同、この思いを胸に事業運営に邁進していく所存です。

社会福祉法人 敬仁会

理事長 神谷 敬一郎

☑ 令和 7 年度 社会福祉法人敬仁会事業報告

昨今の燃料費及びその他の生活物資等の高騰により、介護業界は今大変な経営苦境に立たされています。その上、長く続く人材難に苦しめられ、一部事業廃止や縮小を余儀なくされた社会福祉法人も少なくない状況です。

このような状況下にあって、当法人は安定的な経営基盤を確立するために、「経費の徹底削減」、「稼働率向上による収入増」を合言葉に、職員一丸となって必死に努力してまいりました。また、その実現のために、例えば、拠点ごとの施設主任会議や在宅部門連携会議で出た妙案は直ちに実行に移し、その数か月後に成果が出たこともあり、その成果が自信と確信につながって、ますます職員のやる気を増幅させ、実績を積み上げてきました。

同時に人材の育成・資質向上のために、中堅職員（主任クラス…これらの職員の資質は法人経営の浮沈にかかわるため）を対象にした研修を令和6年度に引き続き、外部のコンサルに委託し、実施してきました。必要な部分を外部コンサルの知見を取り入れることにより、当法人において間違いなく職員の資質向上が図られ、その結果、法人経営の大幅改善が実現しました。また、中堅職員からの部下へのフィードバックにより職員全体の資質が向上することによって、経営基盤のみならず、利用者サービスの質においても格段に進展が見られました。

社会福祉法人 敬仁会

常務理事 櫻井 誓行

「敬仁」は、主としてご利用者様・ご家族様・地域の方に向け、
敬仁会の日々の様子や、弊法人の理念をお伝えする目的で始まった機関紙です。

30年ほどの年月が流れ、
インターネットを利用した情報公開が可能となった今日、
紙の「敬仁」だからこそできることに着目し、
内容や発行時期を見直し、
新たな「敬仁」としてリニューアルしました。

目次

理事長挨拶・今年度の事業経過報告	02
敬仁会トップニュース	03
敬仁会のとりくみ	05
事業報告	
溪山荘	07
第2 溪山荘ぼっぼ	08
第3 溪山荘あおぞら	11
あかり苑・あゆみ	13
ひなた・いっぷく	14
まんさく	15
野坂の郷	16
特定相談支援フラット	17
敦賀市子ども発達支援センター パラレル	17
福井県発達障がい児者支援センター スクラム福井	19
神宮前ぼっぼ	20
歯科診療所ななクリニック	21
敬仁会 介護相談センター	22
敬仁会 法人本部	22
未来へつなぐストーリー	23
令和7年度 法人決算報告	25
寄付等	27

敬仁会 トップニュース

NEWS 01

溪山荘

開設 40 周年、溪山荘の「新しい介護」への挑戦

—— 伝統を大切にしながら、最新テクノロジーで「ゆとり」と「安心」を。



特別養護老人ホーム溪山荘は、開設 40 周年を迎えます。私たちはこの大きな節目を迎え、さらなるケアの質の向上を目指し、令和 7 年度「ふくい介護テクノロジー・業務改善支援センター」の「生産性向上モデル事業」に応募し選定いただきました。

施設設備の老朽化という課題を抱えるなか、最新の ICT 機器導入に踏み切ったのは、「スタッフが心にゆとりを持ち、ご利用者お一人おひとりと向き合う時間をもっと大切にしたい」という強い想いがあったからです。

導入機器は、aams(生体センサー)：心拍・呼吸・体動の可視化による夜間巡回の最適化、aams コール(ナースコール)、ヘルプパッド(臭いセンサー)：根拠に基づいた排泄ケアの実践、新介護ソフト：法人全体でのデータ管理と情報共有の迅速、を導入いたしました。

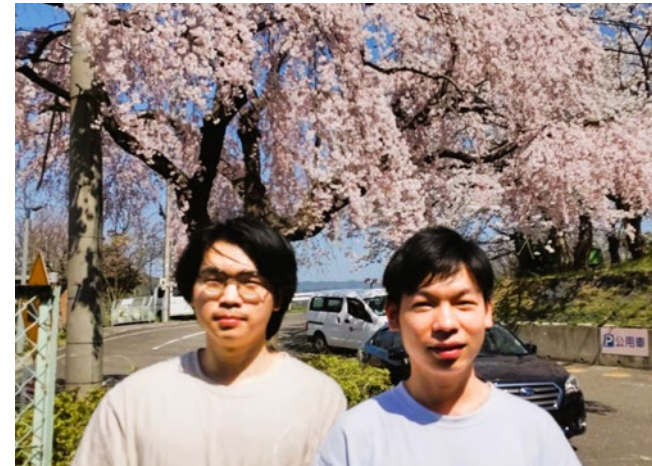
現在は、「ふくい介護テクノロジー・業務改善支援センター」の伴走支援を受け、毎週の検討会議を通じて全職員で機器使用の習熟に励んでいます。私たちの目標は、テクノロジーを「効率」のためだけでなく、ご利用者の笑顔とスタッフの「介護のやりがい」に繋げること、「テクノロジーを使いこなし、人間にしかできないケアに注力する」ことです。令和 8 年度、ご利用者の皆様にとって進化した溪山荘を目指し、職員一同で邁進してまいります。

NEWS 02

敬仁会

世界から集まる「真っ直ぐな心」。

多様性が生む、最高品質のケアを目指して



敬仁会の高齢者施設を訪れると、飛び交う明るい挨拶と活気に驚かれるかもしれません。現在、ベトナム、フィリピン、タイ、中国といった国々から、留学生や技能実習生、特定技能といった在留資格を持った多くの若者が活躍しています。

彼らの働きぶりは、「真摯」の一言に尽きます。来日前から厳しい日本語学習と介護研修を経てきた彼らは、誰よりも日本語や介護技術を学ぶ意欲が高く、入居者様一人ひとりの言葉に耳を傾けようと懸命です。その姿は、入居者様のご家族から「孫のように可愛い」「一生懸命で心が温まる」と厚い信頼をいただくほど。彼らの存在は、もはや当法人になくてはならない「家族」そのものです。

言葉の壁を越えて心を通わせる彼らのコミュニケーション能力や、仕事に対する情熱的な姿勢からは、教科書では学べない「介護の本質」が見えてきます。多様なバックグラウンドを持つ仲間と協力し合うことで、視野が広がり、人間としても大きく成長できるフィールドがここにあります。

国籍の違いは、ハンディキャップではなく、強みです。お互いの良さを認め合い、高め合う。そんな私たちの「心」で寄り添う介護を、ぜひ一度その目でお確かめください。

NEWS 03

多職種連携

敬仁会

敬仁会は、敦賀市を中心に 11 拠点 36 事業所を運営しており、介護サービスのほか、障害サービス、児童・保育サービスなど幅広く福祉サービスを展開しています。法人の理念であるように、地域の「困っている」を支えることを最優先の使命と考えています。その目的を達成するために、月に 1 度、異なる分野の専門職が集結して知恵を出し合う多職種連携会議を開催しています。こうした専門職同士の結びつきを強化することで、新たな発想や気づき、取り組みに展開していくことで、ご利用者やご家族、地域の方々の「安心感」につながるよう努めています。



☑ 敬仁会のとりくみ

インストラクター



教育専任インストラクターの配置

敬仁会では教育専任のインストラクターを配置しています。現在3人体制で、主に新しく入った職員の最初の研修を担当しています。シフトに入りながら教える方法をとる会社はよくありますが、こうして教育専任でインストラクターが配置されているのは、介護の業界では珍しい取り組みです。敬仁会では法人全体で年間の研修スケジュールを策定しており、インストラクターはその企画・運営・更新が主な役割です。また、資格取得へのサポートも大事な仕事です。



介護福祉士国家試験合格 100%を目指して

私たちは、介護未経験で入られる方の不安が、少しでも軽減すればという思いで、実際に介護の基本的な知識や技術をその人に合わせた指導・サポートを行っています。そのサポートの一つに、介護福祉士国家試験対策があります。介護の知識をはじめ13の分野から125問出題されるので、継続的に勉強してもらわないと簡単には合格できません。その為、受験者の負担を少しでも減らすよう模擬問題を毎週提供して、合格を目指しています。職員には日本人だけではなく中国・タイ・ベトナム等の外国人も同じ試験に挑戦します。共に頑張る仲間もあり、刺激を受けながら取り組んでいます。ですから、無資格者・未経験者も安心してください！大歓迎です！毎年3月には合格に喜ぶみんなの笑顔が、私たちの励みとなっています。

自立支援



歩行練習



体が不自由でも移動リフトでトイレ



イベント食（流しそうめん）

敬仁会では、平成16年から自立支援「おむつゼロ作戦」「常食化プロジェクト」を立ち上げ、「歩行ケアの自立支援」に取り組み、現在に至るまで、進化していく基礎知識・技術を学びながら実践しています。

近年では、健康の3要素である「食事」「運動」「睡眠」に注目し、介護機器やIoTを活用して「十分な栄養摂取」「歩行を主とした運動」「良質な睡眠」となるよう関連部署と連携を図り取り組んだ結果、おむつゼロの達成や、ADL（日常生活動作）が改善され自立した生活を獲得された事例も出てきています。体が不自由で動かすことが出来ない方が「トイレで排泄がしたい」との想いをかなえるため、移動リフトでトイレでの排泄が達成されました。また、看取りで余命わずかの方が献身的に水分・栄養を中心とした介護を行った結果、健康を取り戻し入居者の皆さんとイベント食と一緒に食べるまで回復、さらに認知症状が改善し皆さんと楽しく過ごされるケースが多く見られています。

このように、課題を解決して行くことで、ご利用者が元気を取り戻され、再び笑顔が戻った状態を拝見すると、自立支援の取り組みを行って本当に良かった、これが新しい介護の世界だと「介護の醍醐味」を感じることができます。これからも自立支援を実践し、お一人でも多くのご利用者が尊厳のある快適な生活を送っていただけるよう取り組んでいきます。

福利厚生

職員の幸せが法人の発展に

敬仁会の理念は「地域の困っている」を支えること。この理念を実現するためには、支える側である職員自身が困っていないは他の「困っている」を支えることは出来ません。敬仁会では働く職員の無用なストレスを軽減し、職員が「困っている」をしっかり支えることが出来るように職員の声に耳を傾け様々な福利厚生等の施策を打ち、職員が安心して働ける環境を提供出来るよう努めています。

「さあ、人生を楽しもう！」

敬仁会には「さあ、人生を楽しもう！」というキャッチフレーズがあります。これはご利用者、職員、その家族等、敬仁会に関わる全ての方の人生が豊かで楽しいものになるようにとの願いを込めたキャッチフレーズです。職員にはオンとオフを切り替えて自身の家族・プライベートを大切にしてほしいと考えています。その為にも出来るだけ残業を少なくする取組等を行っています。

1か月の平均残業時間

2.4時間 / 月（全国平均10時間 / 月）

有休消化率

74.2%（全国平均66.9%）



女性活躍推進企業

敬仁会は福井県より「女性活躍推進企業」に認定されています。女性管理職等様々なポジションで女性が活躍しています。また企業主導型保育所も開園し、女性だけでなく子育て世代が働きやすい環境を整えています。



様々な社内外イベント企画

職員間の交流を図るため様々な社内イベントを企画したり社外イベントに参加したりしています。もちろん参加は個人の自由。例えば、長野県へのスキー・スノーボード旅行の実施や福井ユニテッド主催のフットサル大会への参加、ボーリング大会の企画など。法人からの助成金等もありお得に楽しんでいます。（文部科学省スポーツ庁よりスポーツエールカンパニーに認定されています）



☑ 事業報告

今年度の取り組みを「種をまく」「芽が出る」「花が咲く」の3段階で紹介します。

種をまく … 始めたばかりの取り組み

芽が出る … 継続している取り組みの経過

花が咲く … 取り組みの成果

溪山荘

特別養護老人ホーム 溪山荘

特別養護老人ホーム溪山荘は、常に介護を必要とする人に対し、日常生活を送られる中で必要な支援、自立支援を目的とするケアプランに沿った入浴や食事、排泄や機能訓練といった介護サービスの提供を行っている公的施設で、略して「特養（とくよう）」とも呼ばれています。24 時間体制の介護で、ご本人とご家族のご希望があれば、お看取りまでの介護サービスの提供が可能な施設です。溪山荘は、個室と多床室が混在している「従来型特養」でもあります。

法人の中で初めて開所した溪山荘、今年で 40 周年を迎えます。これまでお支え頂いた様々な方々への感謝の気持ちを忘れずに、目の前のご利用者・ご家族の皆様に少しでもご安心ご満足いただけるよう、職員一同、一生懸命に励んでいます。

ご満足いただける利用者本位を目指して

私たちは、季節やご利用者のご希望に合わせて積極的に外出援助を実施しています。外出には気分転換や社会交流などの目的は様々なありますが、令和5 年度より白寿や 100 歳のお祝いといった節目の時や看取りケアのご利用者及びご家族に対し、ご自宅への外出援助を個別支援として取り組んでおり、R7 年度は年間 46 回の外出を実施することができました。

「あの場所へ行きたい」私たちはそのようなご利用者の想いにお応えしたいと考え、私たちは外出支援を積極的に取り組んでいます。

「家に帰りたいけど車椅子だから無理かな」「外出させたいけど家族だけでは不安」

そんなご本人・ご家族の声に対し、私たちスタッフが同行・サポートをさせて頂くことで安心安全な外出をサポートさせていただいております。

ご利用者・ご家族と共に住み慣れた我が家でのひととき、大好きな味を心ゆくまで楽しむ食事、大切な方へ手を合わせるお墓参り等誕生日や白寿、100 歳のお祝いといった節目の日に合わせて計画・実施しております。

外出先で見せてくださるご利用者の笑顔や安心された表情を拝見するたび、私たちはこの仕事のやりがいや喜びを感じます。これからご利用者・ご家族の気持ち立場になって考え、少しでも、少しの時間でも「ご満足いただける利用者本位」を目指して、外出支援を大切に続けてまいります。



溪山荘 ショートステイ

溪山荘ショートステイは、要支援、要介護の認定を受けられている方が、施設に宿泊して食事や入浴、排泄の介助などの日常生活のサポート、身体機能の維持・向上を目的としたリハビリ、レクリエーションなどを受けられるサービスです。

また、「介護される側」だけでなく、「介護する側」のサポートという側面が強いのが特徴です。ご家族の私的な行事、旅行やレスパイト（休息）、突発的に必要になる緊急、やむを得ない事情等、様々な利用の仕方があります。お困り事がありましたら、お気軽にご相談下さい。

甘い香りに誘われて、心はずむ午後のひととき



ある日、ご利用者から「みんなで甘い物でも食べたい」というリクエストがありました。ご利用者の希望を叶えたいという職員の思いから、企画してお菓子作りを始めました。お菓子作りを始めると、普段、居室で過ごすことが多いご利用者も、甘い香りに誘われて、ホールに出てこれれ興味津々。笑顔が溢れて、「みんなで食べるのもいいな」、「美味しいわ」とご利用者、職員とも自然と会話が弾んでいるのが印象的でした。

自分たちが当たり前に行えていることが、ここに来れば実現できるように、日々、考えながら職員一丸となって取り組んでいきたいと思ひます。

また、皆様の声を聞かせて下さい！！

溪山荘 デイサービスセンター

溪山荘デイサービスセンターは、要支援・要介護の認定を受けられ、在宅で生活されている方がご利用する通いの場です。市内を一望でき、春夏秋冬を感じられる場所で、介護、看護、機能訓練の専門職がチーム一丸となって支援をさせていただきます。

特に天然温泉での入浴は大好評です。少しぬめりのある温泉の性質で、お肌がつるつるになり、保湿・保温効果が抜群なことから、ご利用者の皆様も大変喜ばれています。初代理事長の法人設立理由の一つである「温泉を使い、高齢者の皆様に幸せになって頂きたい」という想いを継承し、新しい取り組みを取り入れながら、ご利用者の皆様に「来て良かった」と感じていただけるよう毎日のサービス提供に努めています。



遊べるデイサービス

「温泉といえば卓球やカラオケ、ゲーム」というように、溪山荘デイサービスセンターは、温泉に入って、機能訓練をされたら、あとはご自由にお過ごしいただけます。その日の気分でまったりするのもよし。気の合う仲間とお話するのもよし。昔遊びや編み物、手芸、将棋、麻雀、パチンコ、トランプをするのもよし。その日の過ごし方をご本人の「自己選択」でご支援させていただいております。「自己選択」していただくことで、意欲や活力の向上や新たな仲間との繋がりができ、いつまでも生き生きと在宅での生活ができるようご支援させていただいております。



ご本人と向き合い、仲間と共に学ぶ機能訓練

機能訓練は、日常生活に必要な身体機能の維持・向上を目的に、ご利用者ひとり一人に合わせたプログラムを組み、サービス提供を行っています。お身体の悩みや苦痛があれば、真摯に対応し、ご自宅でできる運動のご提案もいたします。慣れ親しんだ仲間や新しい友人と共に取り組むことで、会話が弾み、笑顔あふれる環境が生まれ、機能訓練にも相乗効果が生まれています。また、日頃の機能訓練の取り組みの成果を、定期的な体力評価をすることで「見える化」し、ご利用者の更なる意欲向上につなげたいと考えています。

第2溪山荘ぽっぽ

特別養護老人ホーム 第2溪山荘ぽっぽ

駅前の立地を活かして

「お買い物したい」「甘い物が食べたい」「散歩に行きたい」などやりたいこと、食べたい物などの希望はみなさん持っていますよね。当施設は敦賀駅の傍に位置し、駅前開発によってカフェやショッピングセンターが整備されました。そのため、入居者の方の「やりたい」「食べたい」「行ってみたい」を叶えやすくなり、施設の外に出る機会が増えました。ご家族様も面会の際に、「散歩がてら駅前でお茶を飲めます」と一緒にお出かけされる姿も見られます。入居者の方の「やりたい」「食べたい」「行ってみたい」の声をキャッチし、ぽっぽだからこその希望の実現を目指していきます。



自然な排便を目指して

一昨年から重点的に取り組んでいる『下剤を使用しない排便ケア』について今年度は下剤使用率20%以下を目標に重点的に取り組みました。下剤に代わるアプローチとして、腹部のマッサージや水分ケア、活動量（歩行距離）を上げるなど個別の課題を抽出し、腸及び全身への働きかけを行った結果、昨年度28名(40.7%)でしたが、現在12名(17.2%)となりました。また、自立支援ケアの要であるおむつ外しの取り組みは、昨年度平均4名/70名(5.9%)で4月をスタートしました。令和7年度平均3.8名/70名(5.6%)と多職種で取り組んだ結果が少しずつではありますが、出てきています。今年度も入居者様の健康や笑顔のため、自立支援ケアを継続して取り組んでいきます。



第2 溪山荘ぼっぼ ショートステイ

ぼっぼショートステイは要支援1～2、要介護1～5の認定を受けられた方を対象に、当月より3か月先までのご利用予約を承っております。主なサービスとして、食事・栄養面の管理や排泄・入浴等の身体保清の支援、身体機能維持向上のための体操や運動および集団レクリエーション等を実施しております。ご本人・ご家族のご都合に合わせて、担当相談員が随時利用日時を調整しており、突然のご用命や緊急での受け入れ、土日祝日の送迎に関しましては、できる限り対応いたします。



～地域の皆様に信頼され、愛される事業所として継続していくために～

昨今の福祉事業を取り巻く状況は混迷を極め、全国的な規模で赤字運営や事業所の縮小・廃業が相次いでおります。そのような厳しい状況のなかであって、当事業所の令和7年度は、今日までの皆様の温かいご支援により、前年度を上回る安定した事業を展開できております。年間延べ利用者数は、令和6年度の3,798名から令和7年度で3,872名と増加し、日々業務の成熟と充実を実感する次第であります。これからも、より一層のご愛顧をいただき、皆様に選ばれ続ける事業所となるため、ぼっぼショートステイがこれまで歩んできた道のりと共に、職員一同気持ちを新たに精進していく所存であります。

第2 溪山荘ぼっぼ デイサービスセンター

当事業所は、敦賀市内の要支援・介護者の方を対象に、自宅での生活において自立した日常生活を送れるよう入浴、排せつ、食事等のお世話や機能訓練を行っています。他者との交流に重点を置き、リハビリでも話をしながらできるように工夫したり、空いた時間でもトランプや歌唱やオセロなどを通じて交流を図って頂けるよう配慮しております。初めて来られた方が不安にならないよう職員一同取り組んでおりますので、いつでもデイサービスのご利用をお待ちしています。



今日も楽しかった、をたくさん感じて頂けるように

「よく忘れるようになった」という声をよく聞くことがあり、ぼっぼデイでも記憶力の低下や認知症予防などにはできることはないかと考えて、認知症予防型デイサービスとして取り組んでいきたいと思ひます。認知症の予防・改善効果がある「学習療法」を取り入れて、少しでもその人らしい生活を送るサポートができればと考えています。また、現在のレクリエーション活動をもっとレベルの高い趣味活動として取り組むことや敦賀駅前の近隣地域との交流を体験して頂くべく取り組んでいきます。

養護老人ホーム 萩の苑

養護老人ホームは、経済的理由や自宅での生活が困難な高齢者に対して支援を提供することを目的とし、基本的には65歳以上の高齢者が対象で、日常生活がある程度できるものの、支援が必要な高齢者を対象としています。（目安として自立の方から要介護2程度の方）市町の福祉課へご相談をいただき、入所申請となります。

保育園児との交流で意欲的に

今年度、園児、児童、学生さんたちとの交流を通し楽しい時間を過ごすことができました。これからも利用者の方々が生きがいや意欲を高め、生き生きと日々を過ごしていただくことを目的としていきます。



敬老の日のプレゼント



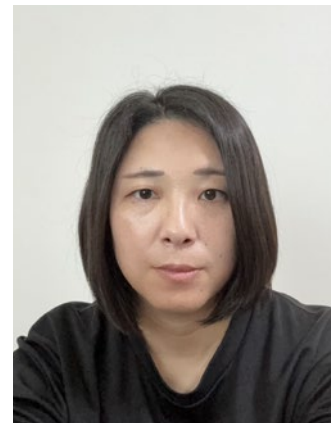
サツマイモの苗植えをしました



サツマイモの収穫ができました

敬仁会 ヘルパーステーション

当事業所では、住み慣れた地域と家でいつまでも自分らしくあるがままに安心して暮らせるよう専門のホームヘルパーがご自宅を訪問し、ひとりひとりの価値観や生活スタイルを尊重した支援を心がけています。敬仁会では「困っている」を支える事業展開を行っており、令和5年より障害者総合支援の様々なニーズにも対応して年々地域に根づいてきています。



住み慣れた家であるがままに過ごす

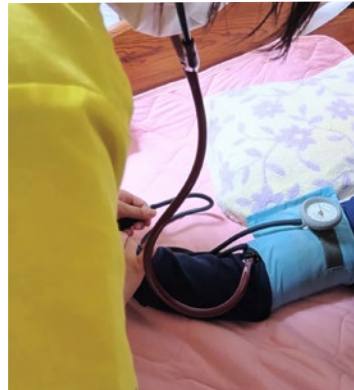
男性ヘルパーが加わり、異性に対する初めての利用者訪問時には前もって説明し、ご理解を頂いています。また時代の流れの中でICT化を導入し、効率の良い業務改善を進めると共に均一なケアの質の向上に時間を確保して”安心できる”と思ってもらえるヘルパーを目指しています。

紹介先、ご利用者数を増やす取り組み

紹介先、ご利用者数を増やす取り組みを行ってきました。
R4末 24先 48名 R5末 28先 49名
R6末 25先 62名 R7末 17先 49名
チーム一丸となってさらに利用者を増やすよう頑張っていきます。

敬仁会 24訪問看護ステーション

訪問看護では、介護予防から看取りまで、小児から高齢者までご自宅で安心して暮らし続けるためのさまざまな支援を行っています。昨年度は20代の看護師2名が加わり、世代を超えた温かなチームとなりました。看護師3名と理学療法士1名の小規模ステーションですが、その分スタッフ同士の連携が取りやすく、ご利用者様の状態や想いを日々共有しながら支援しています。明るさと行動力、そして確かな専門性でご利用者様一人一人に寄り添い、その人らしい毎日が続くよう心を込めて支えています。



住み慣れた家でその人らしく

病院とは違い、実際の生活の場に伺いケアを行うため、ご利用者様の「日々の暮らし」を大切にしています。その方の日常生活や大事にしてきた想い・生き方などを丁寧にお聞きし、強みを活かしつつ一人ひとりに合った方法で看護を提供しています。笑顔と思いやりの言葉を大切に、希望するご自宅でその人らしい毎日が続くよう心を込めて支え続けています。

「好き」を活かした内服継続支援

内服管理が難しく残薬が何か月も残ってる中、訪問看護が開始となりました。ご利用者様の生活スタイルや日常の習慣・好みなどをお聞きし、一般的なカレンダーやボックス管理ではなく「好き」と言われているペットを活かしつつ 持たれている力を発揮できる方法がないかと工夫した結果、現在はほとんど残薬なく飲まれるようになりました。できないではなく、できることに目を向け、その人らしい暮らしに合わせた支援が成果に繋がりました。

第3溪山荘あおぞら

地域密着型特別養護老人ホーム 第3溪山荘あおぞら

原則、要介護3以上の方を対象とした施設で、定員29名の小規模老人ホームです。

残存機能を活かしたケアを実施した「オムツゼロ」、誤嚥性肺炎を予防する「100%口腔ケア」の取り組みに力を入れています。

また、地域の福祉拠点として地域の「困っているを支えるために」日々、知識や技術の研鑽に励んでいます。



施設から地域へ。多職種連携でつなぐ、あなたらしい生活

あおぞらでは、施設をご利用になっても「地域とのつながり」を絶やすことなく、ご自分らしい生活を継続できるよう支援しています。

専門スタッフがチームとなり、ご利用者様一人ひとりの身体状況や「地域の行事に参加したい」「自宅で、家族と今まで通り食事をしたい」「家の仏壇に参りたい」といった目標に合わせた支援を実施しています。

施設の中で安全に過ごしていただくだけでなく、再び外の世界へ一歩を踏み出すための身体づくりと自信の回復を、全力でサポートします。住み慣れた地域社会のなかで、いつまでも笑顔で暮らし続けられるよう、外出支援を通じて社会参加への「芽」を大切に育ててまいります。

第3溪山荘あおぞら ショートステイ

あおぞらショートステイは、介護保険にて要支援・要介護の認定を受けられ、自宅で生活されている方が利用できます。ご利用者が可能な限り自宅で自立した日常生活が送れるよう、短期間入所して、入浴や排泄、食事などの介護や機能訓練などのサービスを受けるものです。

ご利用者の心身の機能維持や、ご家族の介護負担軽減を目的としており、次のような場合に利用できます。

- ・ご利用者の心身の状況により、自宅での日常生活に 支障がある場合
- ・ご家族の病気や冠婚葬祭、出張などで一時的に在宅介護が困難な場合



ご本人の意欲から広がる、自立への可能性

あおぞらショートステイでは理学療法士による、個別機能訓練が実施されています。

あおぞらショートステイご利用中の、一人暮らし90歳の女性は、昨年末に「右膝関節偽痛風」により入院。入院前は、ポータブルトイレも自立して使用できる方でしたが、入院をきっかけに歩行困難になり、寝たきりオムツ生活となってしまいました。突然の変化に、ご本人をはじめ、ご家族も未だ戸惑いを隠せていない状況でした。

医療機関では車椅子での生活がゴールと言われていましたが、ご本人は「もう一度立って歩けるなら歩いてみたい」と意欲は高く、その気持ちを汲むべく、あおぞらショートステイでのリハビリを開始。リハビリにより、立位を保持することができたことで、トイレでの排泄が可能になりました。一歩ずつではありますが徐々に本人様の自信が戻ってきています。私たちはこれからも、しっかりと寄り添っていきます。

第3溪山荘あおぞら デイサービスセンター

あおぞらデイサービスセンターでは、入浴や食事といった日々の基本的な生活支援に加え、特にお口の健康から始まる全身の活力維持、「生涯、ご自身の口で美味しく食べる喜び」を守るため、口腔機能向上に真摯に取り組んでおります。ご家族では行き届きにくい細やかな口腔ケアを通じて、誤嚥性肺炎を予防し、健康で尊厳ある生活の質を追求いたします。あおぞらで、心豊かな、輝く毎日を共に歩んでいきませんか。



頼れるデイサービスへ

私たちが大切にしているのは、利用者様が心の奥底に秘めた「本当はこうしたい、でも言えない」という切なる願いです。諦めていた想いを私たちが丁寧に掘り上げ、希望へと変えるために、チーム一丸となって誠心誠意、最善を尽くすことをお約束いたします。ここは、皆様の「心の拠り所」であり、明日への活力を生む場所であり続けたいと考えております。

職員の育成

私たちは介護の専門職としての矜持を持ち、単なる扶助に留まらない、心に深く寄り添う上質なサービスの実践を目指します。リーダーを筆頭に、高度な技術と豊かな人間性を養うための研鑽を絶やさず、チーム全体で支え、高め合う強固なフォロー体制を築いています。一生懸命に学ぶ新しい力を全力で育て、最高品質のケアをお届けしてまいります。

社会参加型通所介護 ネイバース

令和7年6月1日から社会参加型通所介護「ネイバース」として、リニューアルしております。私たちは、デイサービスをただ過ごす場所ではなく、お一人おひとりが社会の一員として再び輝ける「架け橋」へと進化します。認知症を抱える方々が、住み慣れた地域で誇りを持って自分らしい生活を営めるよう、個別性に配慮した高度な専門支援を徹底し、在宅生活の可能性を広げてまいります。



社会参加への取り組み

認知症があっても、その方らしく社会に関わり、役割をもつことは生きる活力となります。雑巾販売や地域の清掃活動、お買い物や料理など、日々の活動を通じて生まれる「誰かの役に立てる喜び」を全力でプロデュースいたします。私たちは、利用者様の想いをどこまでも尊重し、共に歩みながら、地域社会との絆をより強固に結んでまいります。



認知症状への取り組み

月に1度「認知症チームケア推進体制委員会」を実施しています。言葉にならない想いから生じるBPSD（行動・心理症状）に対し、お一人おひとりの人生背景を重んじ多職種による緻密な検討を経て、症状の緩和と穏やかな日常の回復に向けた、計画的かつ専門的なケアを遂行いたします。チーム全員で真剣に取り組み、利用者様に寄り添う認知症ケアを実践します。

あかり苑・あゆみ

グループホーム あかり苑

グループホームあかり苑は四方を豊かな自然に囲まれた、四季の移ろいを肌で体感することが出来る環境に立地しています。認知症のご利用者が家庭的な雰囲気の中で、ご自分らしい生活を送ることができます。ご利用者各々の生活歴や時代背景に注目して、過去に体験したことがある役割をスタッフと一緒に行っていただきます。また、地域に開かれた、地域の認知症専門ケアの拠点となれる施設づくりを目標としています。



地域と繋がりを大切に 自分らしく生きる

認知症になると、地域との関わりが遠のく、ましてや施設に入居となると生活範囲が施設だけになってしまうと思われる方も多いのではないかと思います。グループホームあかり苑では近隣地区への行事への参加や外出を積極的に行い、地域との交流の機会が増やすことで社会に参加できるということや今まで長年培ってきた経験を活かしまだまだできることがあるという自信に繋げ、ご利用者が生活していく上で喜びを感じていただけるよう支援しています。

小規模多機能型居宅介護事業所 あゆみ

近年、人口減少や少子高齢化に伴い高齢者の単身世帯の増加が進んでおります。現在、あゆみ登録者のおよそ7割が高齢者一人暮らしです。施設への通い、短期間の宿泊、自宅への訪問を組み合わせ、多様化するニーズに対して関係機関や地域の人のとの繋がりを大切にして、本人の有する能力を最大限に発揮することで、その方々の在宅生活の維持とより豊かな暮らしの実現を目指しています。



住み慣れた地域で、その人らしい暮らしを最期まで支え続ける

あゆみでは、単なる地域へ出向くのではなく、地域の一員として「誰かの役に立っている」実感を支援しています。近隣地区の祭りや行事では企画から携わり、出店を出す等地域で役割を持ち一緒に楽しんで活動できることを支援しています。また、今年度は米袋をリサイクル活用し、鞆作りに取り組んでおり地域へ貢献できることを目標としています。

高齢者になり、病気や認知症となって「できないであろう」ではなくご利用者の「できることは何か」に視点を置き、住み慣れた地域で自分らしく生活を継続できるよう支援しています。

ひなた・いっぷく

グループホーム ひなた

認知症グループホームは認知症の方のみを対象とする専門サービスであり、小規模で家庭的な生活環境のもと、食事の支度や掃除、洗濯など本人のできることや分かることに着眼して職員と共同で生活をおくり、認知症の症状の改善や進行を緩やかにすることを目指す施設であります。ひなたでは、個別の入居者のペースで生活することを心がけ、一人一人の歩んでこられた時代背景や生活習慣を教わりながら、その人の生き方に目を向けた個別的ケアを支援していきます。



～いつまでも自分らしく～

「介護が必要になっても、その人らしい暮らしを大切にしたい。」私たちのグループホームでは、入居者様おひとりおひとりのこれまでの人生や思いを尊重し、家庭的な環境の中で安心して生活できるよう支援しています。日々の食事づくりや家事、顔馴染みの方や地域との交流など、今出来る事を大切にしながら、穏やかで温かい安心できる毎日を過ごしていただくことを目指します。そして、日々の関わりの中で「これがしたい」「あそこに行きたい」といった小さな希望にも耳を傾け、できる限り実現できるよう考え取り組んで参ります。また、ひなぶくコーラス隊やご入居者様で作成した傘マーカ―の地域配布を含め、住み慣れた地域との繋がりを大切にしながら、いつまでも自分らしく過ごせるような場所であり続けたいと思います。

小規模多機能型居宅介護 いっぶく

小規模多機能型居宅介護は2006年4月に介護保険制度改正により今後ますます増加が見込まれる認知症高齢者や中度の要介護高齢者ができる限り住み慣れた地域での生活が維持できるように、地域密着型サービスとして創設されました。

当法人では2017年4月に立ち上げており、年間登録稼働率100%に極めて近い実績を毎年、維持しております。

いっぶくでは令和6年度も引き続き、登録者に対し24時間365日支え、事業所内で完結させるのではなく、ご本人とご家族や知人、ご近所、社会とのつながりを維持して自宅や地域での時間を大切にしたい生活が送れるよう支援してまいります。そして、地域密着型施設として必要な役割を果たし地域に貢献できる施設を目指してまいります。



ひなぶくコーラス隊・傘メーカーの地域配布～いつまでも地域の一員として～

いっぶくでは、ひなぶくコーラス隊の活動や傘メーカーを作成し地域へ無料配布を行っています。介護が必要となってもご利用者が地域とつながりながら役割や楽しみを持てる活動に取り組んでいます。歌を通して保育園の子供たちや地域の方との交流の場を広げ活動しています。コーラス隊を行う時の皆さんの表情は生き生きとした表情をされ、「次はいつあるの？」と皆さん楽しみにされています。

また、ご利用者様と傘メーカーを作成し地域の方へ出向き配布する取り組みも行い、地域の方に喜ばれ利用者様のやりがいを感じておられます。こうした活動以外にも馴染みの店への買い物、地域の行事等にも参加を行い、介護が必要になっても地域の一員として関わり続け、いつまでも自分らしく生きがいや役割を感じられる事を大切にしていきたいです。

グループホーム まんさく

こんにちは。グループホーム「まんさく」です。

R6年3月31日の開所から2年が経ちました。まんさくでは、黒河ユニット9名・野坂ユニット9名の合計18名が入居されています。

食事の支度や掃除、洗濯、畑仕事など、本人のできること尊重し、職員がそのサポートをしながら、共同で生活を送っています。認知症になっても、自分らしくいられる生活空間の実現を目指しています。



～家庭菜園～

まんさくでは、今年もたくさんの野菜が収穫できました。野菜が少しずつ大きく成長する様子を眺めたり、とれたて野菜を使った料理を食べたりと、季節に応じて畑を楽しんでいます。

～認知症ケア～

まんさくでは、認知症専門ケア加算、認知症チームケア加算の算定をしています。認知症ケアに関する研修を修了した職員を配置し、認知症の行動・心理症状の予防や、症状出現時の早期対応をチームで話し合い、実施しています。

～地域交流～

毎日、学校終わりの子供たちが、まんさく広場に遊びに来てくれます。子供たちの楽しそうな声は、入居者の癒しとなっています。また、天気のいい日には小学校の見守り隊として、下校の見守りをしたり、地域のイベントにも参加させてもらっています。

福祉サービス事業所 野坂の郷

野坂の郷 就労支援 B 型事業

工賃アップへの取組



令和7年度も、引き続き「工賃アップ」に向けた取り組みを進めています。令和6年10月からは、ヤマト福祉財団より助成金をいただき、新たにクリーニング事業を開始しました。現在は、溪山荘にご入所されている方の衣類やタオルなどを対象に、集荷・検品・洗濯・乾燥・納品の工程を一貫して行っています。この事業を行うにあたっては、国家資格である「クリーニング師」の設置が必要となります。野坂の郷には有資格者がいなかったため、開所に向けて職員が試験に挑戦いたしました。現在は4名の職員が資格を取得し、そのうち2名が実務にあたっています。今後はこの事業をさらに拡大し、確実な工賃アップにつなげていきたいと考えています。

また、その他の仕事についても、パンの製造・販売や児童施設の清掃、「小鯛のささ漬け」の樽の組立、工業用部品の洗浄、農作業、ダイレクトメールの封入など、一人ひとりに合った作業を提供しています。嬉しい報告として、今年の春には1名の一般就職が決まりました。今後も関係機関と連携を取りながら、就職を希望する方へのサポートに注力してまいります。

参加したくなる活動を増やす



「せっかくのお休みをどう過ごそうか」と思っても、障害のある方の中には、リフレッシュの仕方が分からず悩まれる方も少なくありません。そこで野坂の郷では、2ヶ月に一度の土曜日を「社会参加の日」と定め、様々な活動を行っています。

令和7年度の施設外活動では、加賀フルーツランドへの日帰り旅行や、今庄でのそば打ち体験、カラオケなどを楽しみました。また施設内でも、ゲーム大会やお祭り、お菓子・パン作りなどをして過ごしています。

これらの活動は自由参加としており、ご自宅でゆっくり過ごしたい方は、それぞれのペースで休日を楽しまれています。今後も、皆さんが「ぜひ参加したい」と思えるような魅力的な活動を取り入れていきたいと考えています。

野坂の郷 生活介護事業



安心して過ごせる居場所作り

令和7年度の生活介護事業の取り組みテーマとして、「安心して過ごせる居場所作り」に取り組みました。行動障害のある方や身辺自立ができていない方にとっては、自分の思いを言葉で伝えることが困難なため、本人の思いを引出すことに支援者のスキルが求められます。支援者にとって専門的なスキルを上げることも重要になりますが、同時に、野坂の郷で利用者の方が落ち着いて生活できる環境を整備することも重要なことです。支援者のスキルをあげ、障害者を受け入れる環境を整備し、何回かの通所体験を通して、新しい障害者を受け入れることになります。特に重度の障害者や行動障害のある方は、すでに利用している方との環境もあって、多くの体験を通しての通所開始となります。このような時間を経て、令和7年度に行動障害のある方を新しく受け入れ始めました。本人はもちろんですが、保護者の方にとっても、野坂の郷が安心して過ごせる居場所になればと思い、今後も「安心して過ごせる居場所作り」に取り組んでいきたいと思います。

笑顔あふれる活動作り

2つ目のテーマとして「笑顔あふれる活動作り」です。法人内のマイクロバスを利用してR8年3月には、越前和紙の里のパピルス館で、紙漉き体験をしました。家庭においてはなかなかこのような機会を作ることが難しいため、いろんな体験しようと企画したものです。利用者の方の中には、混雑するところを不快に思われる方もいるため、土曜日の選択参加事業となっており、参加は自由です。参加された利用者の方の本当に嬉しそうな笑顔を見えると、企画してよかったと実感しております。恒例のボーリング大会も開催し、年々上達する姿もありました。港にある赤レンガ倉庫のジオラマの見学も行いました。

令和8年度もこの2つのテーマに取り組んでいきます。

相談支援事業所 フラット



寄り添った支援内容

相談支援事業所フラットも、令和8年4月で丸3年が経過します。基本的には、相談者が望む事業所を利用するための「サービス等利用計画・障害児支援利用計画」の作成することが業務になります。相談者の希望を実現することや、その相談者の望む情報を提供するには、福祉の制度のこと、地域の現状のこと、どの事業所がどのような事業内容を行っているかといった情報など、多くのことを事前に把握しておかなければならないことが沢山あります。そのためには、地域内にある事業所との連携を強化することや自立支援協議会に参加して地域の情報を把握すること、相談支援専門員としての質の向上させることに多くの時間を費やししながら、相談者の「孤立しない居場所を作り」に取組みました。また、家族の高齢化により緊急的に利用者の居場所を確保するため、サービスの調整を行い、介護支援専門員との連携を行いました。

令和8年度は

- ①利用者の希望に基づいた「充実した生活を送る」ことが出来るように、サービスの調整を行い、事業所間の連携をさらに強化し、課題や問題に対してすぐに対応出来るチーム作りを行っています
- ②多様な社会に対応するために、いろんな社会資源を活用し、情報をキャッチ出来るような情報網の開拓を行います
- ③自立支援協議会や相談支援専門員協会の研修会に参加し、スキルアップの場にも積極的に参加します

敦賀市立子ども発達支援センター パラレル

当センターは敦賀市の指定管理者制度により、社会福祉法人敬仁会が管理運営を行っている療育施設です。敦賀市内にお住いの障がいのあるお子さんや発達に障がいのあるお子さんが遊びや活動、療育を通して、日常生活に必要な動作方法や集団生活の力をより伸ばしていくことを目的とした施設です。関係機関と連携し、ご家族が地域で安心して豊かな生活を送ることが出来るように支援をします。

子どもの成長に向けて

パラレルでは児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援・障害児相談支援事業の中でお子さんに応じた支援をしています。「療育」と聞くと硬いイメージをもたれる方も多いと思いますが、決してそんなことはなく遊びの中で発達を促すお手伝いをしています。身体を動かし、手先をたくさん動かす遊びはしっかりとした身体の土台をつくり、コミュニケーションの幅を広げ、身辺自立や生活能力の向上に繋がります。そんな「できた!」「うれしい!」「たのしい!」の経験が自己肯定感を伸ばし一人一人のお花を咲かせてくれます。



パラレル 児童発達支援事業



児童発達支援事業では就学前のお子さんを対象に、お子さんの特性に合わせた日常生活における基本動作の習得や集団生活への適応訓練を行います。「訓練」といってもパラレルの療育は「楽しい遊びの中」が大前提です。楽しくなければ、子どもたちの意欲は引き出せません。子どもたちの意欲とともに小さな芽がたくさん出ます。

「きょうだい」も含めたトータルな家族支援

今年度はきょうだい支援にも力を入れてきました。障がいや発達に気付きさをもつきょうだい児は、親でも当事者でもないからこそ、悩みや問題を抱えて生きていくことがあります。孤独や、寂しい気持ちを軽減し、居場所作りを行います。きょうだいもひとりの子どもとして、みんなが大切に想っていることを届けます。大きなイベントとしては、きょうだい児対象の大運動会は、大盛況でした。いつも利用児しか通えないパラレルが、この日はきょうだいだけが通える特別な場所になります。きょうだいの芽も、しっかり花が咲くように寄り添っています。



パラレル 放課後等デイサービス事業

日常生活に必要な動作方法や集団生活の力をより伸ばしていくことを目的とし、小学生～高校生までの子どもたちが、放課後または夏休み等の長期休暇中に利用しています。療育の場面では、子どもたち一人ひとりに合わせて、楽しく主体的に活動できるための「見て分かる工夫」、安心して『やってみよう』と思えるための「環境づくり」を大切にしています。また、心地よく過ごしてもらえるよう「感覚刺激・マッサージ」等、身体のケアやリラクゼーションも積極的に取り入れています。写真は、お買い物練習のための“パラレル駄菓子屋さん”の様子です。



地域交流 ～企業のご協力をいただいた重機体験～

地域の企業のご協力をいただき、毎年、重機体験を実施しています。“はたらくくま”が大好きな子どもたちは、大きなショベルカーに乗せてもらい大喜びです。企業の方は、子どもたちの特性を理解していただき、「危なくないように・わかりやすく」たくさんの配慮や工夫をしてくださっています。



世代間交流 ～敬仁会のおじいさんたちとの交流～

ハロウィンの交流を始めて、今年で3年目です。【お菓子がもらえる】楽しいイベントというだけでなく、“あいさつをする”“マナーを守る”“役割を果たす”など、子どもたちにとって大きな経験の場になっています。少し緊張しながらも「トリックオアトリート!」と言え、「ちゃんと言えたよ」とうれしそうに報告してくれました。



パラレル 保育所等訪問支援事業

障がいのあるお子さんや発達に気がかりのあるお子さんが健常児と共に集団生活を営む施設（保育所、幼稚園、学校など）を訪問し、その施設にてお子さんが安心して集団生活を送ることができるように、一人ひとりに個別支援計画書を作成し、直接支援や各施設の職員と連携して支援を行います。

保育所、幼稚園を利用していくお子さんについては、初めての集団生活ということもあり、日常生活から行事への参加方法などにご家族、本人ともに不安を抱えるケースが少なくありません。そのため、各施設職員やご家族、また、その関係者と連携を取りながら支援を行います。学校については、オープンスクール等を利用した授業見学や必要に応じてケース会議の実施をするとともに、障害の特性等やその対応方法についてのアイデアの提案を主として行っています。



パラレル 障害児相談支援事業



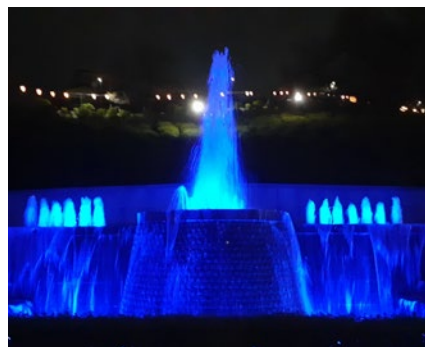
心配ごとを一緒に考え、解決へ

障がいのあるお子さんや発達に気がかりのあるお子さんを中心に保護者からの相談に応じ、障害児通所支援（児童発達支援、放課等デイサービス及び保育所等訪問支援）等を利用する際には「サービス等利用計画・障害児支援利用計画」を作成し、一定期間ごとにモニタリングを行う等の相談支援を行います。また、ご家族や本人の抱える困りごとや悩みについて一緒に考え、関係機関と連携しながら解決に向けて支援します。

福井県発達障がい児者支援センター スクラム福井

スクラム福井 発達障害児者支援

福井県発達障がい児者支援センタースクラム福井は、福井県にお住いの発達障がい（自閉症スペクトラム障がい、学習障がい、注意欠如多動性障がい等）のある方と、そのご家族が、安定して地域で生活出来るように支援するセンターです。利用できる方は、福井県にお住いの発達障がいのある本人と、家族、及び、関係機関等です。乳幼児期のお子さんからご年配の方まで、幅広く相談に応じております。



福井県自閉症啓発デー ブルーライトアップ など

毎年4月2日「世界自閉症啓発デー」として、全世界で取り組みが行われています。これは発達障がいについて地域の理解を進めるため、各地でシンポジウムの開催や主要施設ライトアップ等の啓発活動を行うものです。また、毎年4月2日から8日は、発達障害啓発週間として全国各地で取り組みが行われており、スクラム福井でも各自治体や関係機関の協力を得て、福井駅西口広場や鯖江市西山公園など県内各所でライトアップを行いました。

ほか各圏域での相談窓口として福井県発達障がい者サポーターの育成・設置を行い、地域の支援力向上のための研修も行っています。また、福井県方式アセスメントツール『子育てファイルふくいっ子』普及・啓発の研修や各種講演会など、様々な催しを開催しております。

福井県小児慢性特定疾病児童等自立支援相談所

平成27年10月1日に、福井県より委託を受けて開始しました。福井県光陽分庁舎内に事務所を設け、自立支援員による支援を行っています。相談の対象は、年齢18歳までとなっています。対象となる疾患は心疾患や腎疾患など、開所当初14疾患群704疾病でしたが、その後も制度の見直しが継続的に行われ、現在は16疾患群788疾病となっています。本人・保護者に寄り添い、一緒にご家族の成長を考えるという姿勢を常に大切にしています。



小慢相談所の事業内容をご紹介します！

今年度、福井県小児慢性特定疾病児童等自立支援相談所では、2つの講演会をしました。まず、11月8日、福井県立図書館で、社会保険労務士法人リヴル総研の横井浩章氏に「病気を抱えた子どもの将来の生活、障害年金について」話していただきました。保護者・支援者22名の参加。将来の生活を支えるために障害年金の基礎が学べて良かった、と感想がありました。

次に11月14日、小浜市文化会館で、杉田玄白記念公立小浜病院小児科の原慶和先生に「子どもの病気について～医療と福祉の連携～」について話していただきました。保護者・支援者14名の参加。医療的ケア児、てんかん、発達障がいなどの病気について、ふくいっ子ファイルを利用した医療と福祉の連携など、わかりやすく説明していただきました。子どもの病気のこと、医療と福祉が連携して繋いでくれることを知ることができ安心した、などの感想がありました。



神宮前ぼっぼ

神宮前ぼっぼ 保育園

～神宮前ぼっぼのカリキュラム～

毎週月曜日には英語教室を、木曜日にはリトミック（音感教室）を行っています。講師の指導のもと、英語教室は、3歳以上児が視聴覚教材を使用して果物や色の名前を覚えたり、簡単な英語で歌ったり楽しく取り組んでいます。リトミックは、0歳児から5歳児まで、年齢別に30分程度参加しています。絵本を題材にした季節の歌をうたったり、カスタネットや鈴等の楽器を鳴らし、色々な音やリズムを楽しんでいます。時にはピアノにも触れ、5歳児になると、ハンドベルにも親しんでいます。



～ぼっぼの暮らしを築き上げるために～

令和8年中に50名定員となります。0歳児から5歳児まで、家庭的な雰囲気の中で「ぼっぼの暮らし」を楽しんでいます。小さい子たちは大きい子の姿を見て育ち、大きい子たちは家族や保育士の姿を見て成長していきます。当園の保育の大きな特徴である「探検」や「散歩」において、合同保育や異年齢の交流の中で、切磋琢磨しながらたくましく成長している姿に、きらりと光る「個性」が見られます。

園児が安心・安全な集団生活を送るには、家庭と園とが車の両輪になって歩んでいかなければなりません。本年も保護者参加型行事や園独自の行事を通して、一人ひとりの成長を喜び合い、未来に向かって羽ばたく子どもたちの成長を願い、職員一同、新たな気持ちで「ぼっぼの暮らし」を築いていきたいと考えます。

神宮前ぽっぱ 放課後等デイサービス

神宮前ぽっぱ放課後等デイサービスは県内でも珍しい保育園に併設している施設です。障がいのあるお子さんや発達に気かりのあるお子さんに、活動や集団生活を通して日常生活やコミュニケーションの力、自立に向けて必要な力を伸ばしていけるように支援をしています。安心できる場所で楽しく遊びの幅や自立に向けた力を伸ばしていくことができるように、お子さん一人ひとりの個性や特性に合わせて環境や活動の設定を行っています。



幅広い年齢層での関わり方やコミュニケーションの力

同法人の介護施設や保育園と交流の場を設けています。参加する子どもたちが安心して過ごすことができるように以下の支援を行いました。

- メンバーと一緒に参加する職員を写真で貼り出しいつでも確認ができるようにする『視覚支援』
- 事前に情報を知ることによって安心して参加する『見通し』
- やめたい時や助けてほしい時に人に伝える力を養う『自己発信』

たくさんの人と接する中で距離感や言葉の掛け方、伝える力が育まれます。今後も様々な活動やたくさんの人たちと接する中で子どもたちが自分の力を伸ばしていくことができるように、保護者の方とも連携を取りながら取り組んでいきたいと考えています。

歯科診療所 ななクリニック

時代の変化に合わせて

近年、歯科業界でもデジタル化が進んでおり、当院もここ数年、新製品が登場するたびに実機を操作し、導入の検討を重ねてきたものにデジタル印象というものがあります。従来は粘土のようなものをお口に入れて固まるのを待ち、それを用いて差し歯などを製作していく方法がとられており、その精度の良さに取って代わるものはないと考えております。そして2026年春現在では、いまだにその方法に信頼をよせ、製作しているものが多いのが現状です。

しかし、昨年発売され、福井県内では最初に導入した最新のデジタル機器において仮の歯やデジタルで製作していくものの相性など一定のものに関しては活用できるものと考え導入することになりました。これらは、重度の歯周病に罹患しておられる方の型取りなど従来では難儀する状況にも対応できる点や患者様にお見せできる視点が従来のCTやレントゲンとは異なるというメリットがあり、今後も幅広く活用していきたいと考えております。

時代の進化とともにアップデートさせながら活用していけたらと考えております。

そして院長自身も福井県で初めての歯周病学会専門医であるとともに幅広く現在の歯科医療について研鑽を積み、日本歯科医師会による浅くても全分野において一定の研鑽を積んでいることを認められ、認定制度が開始した当初より6年連続して、研鑽を積んでいることを表彰されております。木を見て森を見ずとならぬよう歯科全分野において、研鑽を積み続けることは歯科医師として最低条件と考え、今後も研鑽を積んでいきたいと考えております。



開業当初から備えていたCTも2025年より高精度のAI機能を搭載したモデルのものに変更しております

敬仁会 介護相談センター

経験豊かな介護支援専門員が、困りごとに迅速に対応します。どこに相談したらいいかわからないことも間に入っておつなぎします。敬仁会介護相談センターは地域の「困ってる」に対する敬仁会ワンストップの窓口となる。窓口の先には敬仁会が広がっている、そんな敬仁会介護相談センターを目指します。8人体制（男性1人女性7人）でどんな困りごとにも共に立ち向かい、解決を目指します。

質の高いケアマネジメントを提供

誰が担当しても同じように質の高いケアマネジメントができるよう、週1回以上部内会議を持って研鑽しています。難しい事例にも3人よれば文殊の知恵。8人で相談しあってベストな選択肢を共に探します。

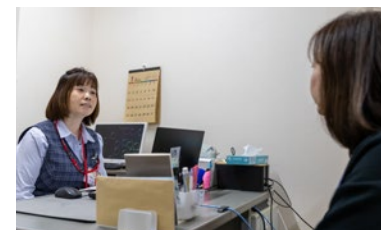


地域の「困っている」ことに耳を傾ける

かねてから敬仁会で取り組んでいる敦賀市の介護負担軽減事業「やすらぎカフェ」をR7年度から介護相談センターで担当することになりました。毎回多くの方集っていただて話し合い、少し心を軽くしてまた毎日に帰っていきます。現場で何が起きているのかを身近に感じる介護支援専門員だからこそ、寄り添えるカフェにしています。

医療連携

看護師資格のある主任ケアマネが2名います。系列の泉が丘病院をはじめ、市立敦賀病院、医療センター等から多くご相談を受け付けています。高齢者にとって入院は心身に大きなダメージを残しかねません。退院後、あなたらしい生活を続けられるようマネジメントします。



敬仁会 法人本部

法人本部は、理事会の意思決定に基づき、法人全体の各事業の計画的な進行管理を行っています。具体的には財務部門による予算・決算等財務管理、人事部門による採用活動や職員教育、広報活動、総務部門による各種申請業務や各事業所間の業務調整など多岐にわたります。様々な業務を通して、法人内の各事業所の運営を支援し、法人の利用者の方と働く職員のサポートをしています。



職員研修「心理的安全性コミュニケーション研修」

当法人では毎月テーマを決めて職員研修が行われています。今年度は新しい試みとして2月に外部よりファースト株式会社と日本即興コメディ協会の方々にお越しいただき「心理的安全性コミュニケーション研修」を行っていただきました。総勢200名超の職員が参加。ユーモアの活用による心理的安全性作りをグループワークを通して学びました。より良いチーム作りの第一歩です。

若手職員による福祉の魅力発信

当法人の若手職員が福井県社会福祉協議会主催の「就職内定者応援セミナー 2026」に講師として参加しました。高齢者・障がい・児童の各分野から入職4年目までの若手職員が1名ずつ参加し、福祉業界への就職が決まっている学生さんたちに先輩として色々な体験談を対談形式でお話させていただきました。敬仁会では様々な機会でも福祉の魅力を発信させていただいています！



☑ 未来へつなぐストーリー

子を持つ お母さん・お父さんが、 働きやすい環境を考え 続けること

産休・育休等取得の権利は、そもそも法令で認められているものであって、「わが社は、職員にしっかりと産休・育休を取っていただいています」と言ってもそれは、働きやすい環境を整えているとは言えません。



産休・育休等に対する 職員の意識改革

当時の施設長は、産休・育休に対する当たり前の考え方を職員に持ってもらうように訴え続けました。妊娠はめでたいことであり、妊婦さんに対しては、心身共に気遣ってあげるのが当然であり、みんなで支えあうことが大切なこと。育児のために時間を使う大切さを理解すること。つまり、子を産み育てることに對して理解しみんなで支えるという空気を職場に浸透させること。今となつては当たり前のことかもしれませんが、当時の介護施設としては相当先進的だったのではないのでしょうか。



働きやすい環境とは

昭和60年開設の当法人ですが、開所当時は、妊娠された職員に対し、重いものを持つ等の作業をしないよう・夜勤を免除するよう配慮したところ、ごく一部の職員から「不公平ではないか」という声があがったそうです。それを聞いた当時の施設長は愕然とし、職員の意識改革に乗り出しました。



家族ファーストを 会社も同僚も応援

授業参観、運動会、入学式等の学校行事や、お子様の病欠時などの「子育て大変あるある」に対しては『おたがいさま』の精神が浸透しています。法人設立から30年以上経過し、子育ての大変な時期を乗り越えた職員がたくさんいます。会社だけでなく同僚もあたりまえのこととして子育てを応援する風土がある、それが敬仁会です。もちろんお子様以外の家族都合のお休みも支援します。

職員の意識は法人文化に

今となつては、職員の「おたがいさま」の精神は、法人文化にまでなった感があります。法人としては、これからも、職場環境整備を子育ての観点、福利厚生観点、職員育成の観点から考え続けていきます。

2022年、職員が 「本当に自分の子を預けたい」 保育園の開設

職員が安心して働けるよう託児所をつくる計画は長い間検討されてきました。しかし、規模の小さい託児所・保育園をつくっても、職員が本当の意味でそこに子を預けたいだろうか・・・という疑問が付きまといました。

この時に私たちの追い風となったのが国の「企業主導型保育事業」です。5年ほどの検討期間・準備期間を経て、その間、保育に精通した様々な人との出会いもあり、ここに定員50名、対象年齢0～5歳、365日・7時～20時営業の神宮前ぽっぽ保育園を開所することができました。



 令和7(2025)年度 法人決算報告

事業活動計算書

(令和7年4月1日～令和8年3月31日/単位：千円)					
勘定科目		当年度決算	前年度決算	増減	
サービス活動増減の部	収益	介護保険事業収益	1,870,602	1,802,363	68,239
		老人福祉事業収益	62,079	82,027	△ 19,949
		保育事業収益	116,285	105,885	10,400
		就労支援事業収益	12,408	12,517	△ 109
		障害福祉サービス等事業収益	310,055	298,462	11,594
		医療事業収益	80,338	78,771	1,567
		その他の事業収益	162	180	△ 18
		その他の収益	212	3,900	△ 3,688
		経常経費寄付金収入	480	1,373	△ 893
		サービス活動収益計 (1)	2,452,621	2,385,478	67,143
	費用	人件費	1,509,758	1,525,671	△ 15,913
		事業費	286,422	297,648	△ 11,226
		事務費	225,365	204,486	20,879
		就労支援事業費用	17,929	16,822	1,107
		利用者負担軽減額	2,147	2,152	△ 6
		減価償却費	179,524	184,262	△ 4,738
		国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 52,177	△ 52,568	391
		サービス活動費用計 (2)	2,168,969	2,178,473	△ 9,505
		サービス活動増減差額 (3)=(1)-(2)	283,652	207,004	76,648
サービス活動外増減差額の部	収益	受取利息配当金収益	2,704	623	2,081
		その他のサービス活動外収益	9,088	10,109	△ 1,021
		サービス活動外収益計 (4)	11,792	10,732	1,060
	費用	支払利息	2,768	3,389	△ 622
		その他の活動外費用	2,352	2,663	△ 311
		サービス活動外費用計 (5)	5,120	6,052	△ 932
		サービス活動外増減差額 (6)=(4)-(5)	6,672	4,679	1,993
	経常増減差額 (7)=(3)+(6)	290,324	211,683	78,641	
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	14,000	11,374	2,626
		特別収益計 (8)	14,000	11,374	2,626
	費用	固定資産売却却損・処分損	0	0	0
		国庫補助金等特熱積立金積立額	14,000	11,374	2,626
		その他の活動による支出	4,006	163	3,843
		特別費用計 (9)	18,006	11,537	6,469
	特別増減差額 (10)=(8)-(9)	△ 4,006	△ 163	△ 3,843	
当期活動増減差額 (11)=(7)+(10)	286,318	211,520	74,798		
繰越活動増減差額	前期繰越活動増減差額 (12)	2,915,103	2,714,583	200,520	
	当期末繰越増減差額 (13)=(11)+(12)	3,201,421	2,926,103	275,318	
	基本金取崩額 (14)	0	0	0	
	その他の積立金取崩額 (15)	0	0	0	
	その他の積立金積立額 (16)	20,000	11,000	9,000	
	次期繰越活動増減差額 (17)=(13)+(14)+(15)+(16)	3,181,421	2,915,103	266,318	

資金収支計算書

(令和7年4月1日～令和8年3月31日/単位：千円)					
勘定科目		予算	決算	差異	
事業活動による収支	収入	介護保険事業収入	1,822,930	1,870,602	△ 47,672
		老人福祉事業収入	60,000	62,079	△ 2,079
		保育事業収入	116,000	116,285	△ 285
		就労支援事業収入	11,854	12,408	△ 554
		障害福祉サービス等事業収入	304,105	310,055	△ 5,950
		医療事業収入	78,200	80,338	△ 2,138
		その他の事業収入	120	162	△ 42
		経常経費寄付金収入	100	480	△ 380
		受取利息配当金収入	751	2,704	△ 1,953
		その他の収入	6,780	9,301	△ 2,521
	事業活動収入計 (1)	2,400,840	2,464,413	△ 63,573	
	支出	人件費支出	1,551,699	1,509,421	42,278
		事業費支出	304,403	286,414	17,989
		事務費支出	247,514	225,365	22,149
		就労支援事業支出	17,981	17,763	218
		利用者負担軽減額	2,780	2,147	633
		支払利息支出	2,880	2,768	112
		その他の支出	2,890	2,352	538
		事業活動支出計(2)	2,130,147	2,046,229	83,918
	事業活動資金収支差額 (3)=(1)-(2)		270,693	418,184	△ 147,491
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	13,660	14,000	△ 340
		施設整備等収入計 (4)	13,660	14,000	△ 340
	支出	設備資金借入金元金償還支出	39,761	39,760	1
		固定資産取得支出	87,870	84,879	2,991
		その他の施設整備等による支出	55	55	0
		施設整備等支出計 (5)	127,686	124,694	2,992
		施設整備等資金収支差額 (6)=(4)-(5)	△ 114,026	△ 110,694	△ 3,332
その他の活動による収支	収入	長期貸付金回収収入	12,000	12,038	△ 38
		積立資産取崩収入	14,250	21,172	△ 6,922
		その他の活動収入計 (7)	26,250	33,210	△ 6,960
	支出	長期貸付金支出	16,360	16,360	0
		積立資産支出	45,750	42,080	3,670
		その他の活動による支出	4,320	4,006	314
		その他の活動支出計 (8)	66,430	62,446	3,984
		その他の活動資金収支差額 (9)=(7)-(8)	△ 40,180	△ 29,236	△ 10,944
予備費支出 (10)		0	0	0	
当期資金収支差額合計 (11)=(3)+(6)+(9)		116,487	278,254	△ 161,767	
前期末支払資金残高 (12)			1,538,737	△ 1,538,737	
当期末支払資金残高 (11)+(12)			116,487	1,816,991	△ 1,700,504

貸借対照表

資産の部				負債の部			
科目	当年度末	前年度末	増減	科目	当年度末	前年度末	
流動資産	1,888,438	1,605,812	282,626	流動負債	142,627	138,659	3,967
現金預金	1,564,707	1,280,263	284,444	事業未払金	62,006	57,300	4,705
現金	1,656	1,772	△ 116	1年以内返済予定借入金	39,760	39,760	0
預金	1,563,051	1,278,491	284,560	預り金	20	14	5
事業未収金	319,641	321,593	△ 1,953	職員預り金	9,074	9,261	△ 187
未収補助金	110	549	△ 439	仮受金	192	178	15
原材料	155	322	△ 166	賞与引当金	31,575	32,146	△ 571
立替金	1,819	792	1,027	固定負債	211,462	250,314	△ 38,852
前払金	1,024	1,179	△ 155	設備資金借入金	117,185	156,945	△ 39,760
前払費用	957	983	△ 26	退職給与引当金	94,277	93,369	908
仮払金	25	132	△ 107	負債の部合計	354,089	388,973	△ 34,884
固定資産	2,644,749	2,714,118	△ 69,368	純資産の部			
基本財産	1,766,389	1,871,832	△ 105,443	基本金	296,711	296,711	0
土地	464,238	464,238	0	基本金	263,631	263,631	0
建物	1,301,151	1,406,594	△ 105,443	第一号基本金	15,700	15,700	0
定期預金	1,000	1,000	0	第二号基本金	17,380	17,380	0
その他固定資産	878,360	842,285	36,075	国庫補助金等特別積立金	669,965	708,142	△ 38,177
土地	116,760	116,760	0	国庫補助金等特別積立金	669,965	708,142	△ 38,177
建物	360,143	379,549	△ 19,406	その他の積立金	31,000	11,000	20,000
構築物	43,771	49,339	△ 5,569	備品等購入積立金	7,000	2,000	5,000
機械及び装置	10,594	12,478	△ 1,883	修繕積立金	17,000	9,000	8,000
車輛運搬具	9,100	11,903	△ 2,803	人件費積立金	7,000	0	7,000
器具及び備品	129,107	119,794	9,313	次期繰越活動増減差額	3,181,421	2,915,103	266,318
長期貸付金	29,721	25,399	4,322	次期繰越活動増減差額	3,181,421	2,915,103	266,318
退職給付引当資産	94,277	93,369	908	(うち当期活動増減差額)	286,318	211,520	74,798
差入保証金	17,307	17,252	55				
その他の固定資産	36,579	5,441	31,138				
備品等購入積立資産	7,000	2,000	5,000				
修繕積立資産	17,000	9,000	8,000				
修人件費積立資産	7,000	0	7,000	純資産の部合計	4,179,098	3,930,956	248,142
資産の部合計	4,533,187	4,319,930	213,257	負債及び純資産の部合計	4,533,187	4,319,930	213,257

役員名簿

役職名	氏名
理事長	神谷 敬一郎
常務理事	櫻井 誓行
理 事	有馬 聰一
理 事	刀根 莊兵衛
理 事	竹内 桂一
理 事	福田 晋介
理 事	山本 等
理 事	土屋 尚樹
理 事	橋爪 伸幸
監 事	新納 孝美
監 事	河下 壽夫

評議員名簿

役職名	氏名
評議員	壁下 恒和
評議員	笠原 由和
評議員	鹿山 八重子
評議員	中野 明男
評議員	田保 英二
評議員	寺川 幸江
評議員	藤井 忠男
評議員	山本 健太郎
評議員	岸本 佳久
評議員	高橋 佳文
評議員	山崎 清美

期末職員数 407名

【内訳】			
	男性	女性	計
常勤	64名	176名	240名
非常勤	21名	131名	152名
計	85名	307名	392名

☑ 寄付等 令和7年4月1日～令和8年3月31日まで

溪山荘

< 物品・金品寄付 >

江南 恵子 様
嶋田 千鶴子 様
吉野 浩治 様
小杉 一重 様 弟 様
霏野 郁夫 様
吉川 月嬌 様
江南 新太郎 様
上田 美由岐 様
市村 英喜 様
濱本 秀行 様
伊原 富士子 様
岩崎 修一 様
吉本 美智子 様
青山 初代 様
松本 和代 様
又農 和美 様
遊津 晤二 様
小杉 昌弘 様
飯田 貴弘 様
眞木 祥子 様
縄手 しのぶ 様
中村 晃 様
生見 悦子 様
矢島 一男 様
淵田 房江 様
岸 三憲 様
平賀 強 様
山森 千賀子 様
山口 智子 様
清水 みどり 様
石川 文子 様
荒川 美香 様
福原 敏雄 様
高橋 祐子 様
生松 晃 様
石川 様
武長 元治 様
山本 悟 様
(株) ウタ 様
尾上 澄恵 様
ビイエム キシモト 様
板山 英信 様
浅葉 寛之 様
(有) 読売新聞敦賀 熊谷慎也 様
笠原 由和 様
神谷 多代美 様
(株) 相木魚問屋
木村 孝之 様

谷川 美智雄 様
ハートホール橋詰 様
岨本 和義 様
泉ヶ丘区長 様
福井県基準寝具株式会社 様
酒井電機株式会社 様
(有) 渡辺石油 様
野崎 淳一 様
金築 好枝 様
泉ヶ丘薬局駅前店 南雅継 様
山崎 均 様
鹿島 澄雄 様
(株) 家高 様
渡辺 紀之 様
西村 健吾 様
世森 良枝 様
中信 浩 様
高木 正吾 様
谷口 江莉 様
(有)ドゥエンタープライズ 様
石田 和美 様
遠藤 崇 様
高木 均 様
辻 敦子 様
庄司 美千代 様
山本 悟 様
武長 綾子 様
加藤 綾子 様
小島 幸子 様
則直 加代美 様
井向 保 様
杵岡 靖三 様
小出 ひとみ 様
田辺 とよ子 様
田中造花店 様
旭 美恵子 様
忝山 美喜子 様
奥村 雅男 様
宮下 恵子 様
宮下 清久 様
山崎 房雄 様
野添 豊治 様
北野 義治 様
森井 守 様
宇野 京子 様
うえはま ちえこ 様
瀬尾 信行 様
辻 たつ子 様
アスピカホール 様
菱機工業 (株) 様

竹内 忠雄 様
石田 和美 様
寺木 賢次 様
松谷 政彦 様
平山 徹 様
大北 秀徳 様
石田 順子 様
西岡 弥生 様
青山 初代 様
田中 恵子 様
西村 泰弘 様
西野 京子 様
福井トヨタ 様
見方 功 様
玉井 美次 様
錦織 滋 様
山崎クリーニング店 様
辻村 陽子 様
森永 薫 様
堀池 賀寿子 様
山本 寿美子 様
道野 中尾 様
岩田 芳江 様
竹内 清子 様
吉田 昌弘 様
敦賀工業高校 様
中郷小学校 様

< ボランティア >

散髪 田中理容 様
散髪 高木理容 様
散髪 TAROHAHA 様

< 来訪・交流 >

奉仕作業 北陸電力労働組合青年部 様
施設周辺の草刈り 泉ヶ丘婦人会 様
夏季清掃 溪山荘家族の会 様
草刈り 第5地区民生委員 様
ゆうあい訪問 中郷小学校 様
奉仕清掃活動 福井養正館 様
秋季清掃活動 溪山荘家族の会 様

第2 溪山荘ぼっぼ

< 物品・金品寄付 >

中平 糸美 様
斎藤 亮一 様
須井 たけ子 様
船井 正伯 様
湊 直子 様
中平 嘉彦 様
服部 康昌 様
船木 路貴 様
藪内 淳子 様
家倉 千代子 様
永井 泰元 様
山崎 福子 様
森北 淳子 様
川嶋 佳紀 様
津田 恭子 様
林 美紀 様
榎谷 加代子 様
山口 郁子 様
橋場 育江 様
後藤 健一 様
山本 スミエ 様
田中 千年世 様
一ノ瀬 勢津子 様
山本 美智子 様
川村 ちづる 様
紆田 一宏 様
打它 正人 様
山本 正徳 様
小坂 智香子 様
中谷 千枝子 様
西村 勝則 様
森下 淳子 様
松本 恭子 様
實澤 毅 様
笠原 由和 様
福田 志保子 様
松坂 かず江 様
大塩 眞知子 様
船木 朝美 様
林 洋子 様
塩谷 富美子 様
大和田 敏夫 様
奥村 憲司 様
高橋 英世 様
松下 みよ子 様
鈴木 美佳 様
川嶋 直紀 様
柴田 雄二 様

尾島 寛子 様
庄司 美千代 様
枝澤 恵美子 様
穂谷 由紀 様
細川 豊子 様
清水 和佳子 様
山口 みよ子 様
橋本 雅子 様
山口 雅憲・郁子 様
桑村 典之 様
橋詰 修幸 様
林 眞智子 様
山本 すみゑ 様
上山 健一 様
山田 耕司 様
森崎 香織 様
佐久間 三容子 様
實澤 洋子 様
清水 勝昭 様
永井 喜美子 様
小林 ふさ子 様
山口 姫美子 様
今川 美枝子 様
塩濱 多江子 様
佐野 直美 様
小林 健一 様
塚原 弘純 様
真田 晴美 様
田代 克平 様
成田 富美子 様
市村 ひろ子 様
野々 恵子 様
名村 千恵子 様
敦賀 FC 様
メモリアルハウスはるか 様
ウタ商店 様
(有) 読売新聞敦賀東部 様
高木理容 様
福井銀行 敦賀支店 様
(有) 白都興業 様
福井県基準寝具 (株) 様
(株) 渡辺石油 様
泉ヶ丘調剤薬局 駅前店 様
(株) カネト 様
(株) 家高 様
(株) 相木魚問屋 様
金井自動車工業 (株) 様
(有) ドゥエンタープライズ 様
東郷婦人会 様
アスピカホール 敦賀 様

ハートホール橋詰 様
酒井電機 (株) 様
(株) アポロレントール 様
社会福祉法人 藤島会 様

< 交流・ボランティア >

森野巧巳 様
松尾貴臣 様
やなぎの会 様
F☆キッズ 様
介護相談員 様
東郷婦人会 様
福井県立敦賀高等学校 様
福井県立美方高等学校 様
敦賀気比高等学校 様
敦賀市立南小学校 様

< 見学 >

福井県立工業高等学校 様
福井県立美方高等学校 様
敦賀市立松陵中学校 様

< 実習 >

敦賀市立看護大学 様
京都産業大学 様
滋賀県立大学 様
若狭医療福祉専門学校 様
ニチイ学館 様
敦賀産業技術専門学院 様
敦賀気比高等学校 様
福井県立敦賀高等学校 様
嶺南東特別支援学校 様



第3溪山荘あおぞら

< 物品・金品寄付 >

上原 裕子 様
市川 和保 様
山本 十美代 様
松居 由美子 様
大平 理世 様
谷口 信子 様
増田 敦 殿
森 敦子 様
高木 達夫 様
後藤 純子 様
市村 満男 様
戸田 裕之 様
中村 真澄 様
松重 郁子 様
古市 謙三 様
望月 ますみ 様
中山 恭子 様
山口 典子 様
来 照美 様
鳥居 茂 様
中村 實 様
濱野 克則 様
平林 保子 様
小笠原 喜代子 様
奥田 秀雄 様
笠原 由和 様
高城 啓一 様
柴田 好治 様
土山 和彦 様
市原 里美 様
澤本 利枝 様
杉本 幸江 様
松木 一雄 様
古市 謙三 様
田中 君子 様
岸本 敏郎 様
筒見 智賀江 様
深川 久美 様
最里 久美子 様
(株) ウタ 様
泉ヶ丘調剤薬局 南 雅継 様
福井県基準寝具 (株) 様
富士フィルム BI 福井 (株) 様
(有) 読売新聞 敦賀 様
(株) アポロレントール 様
株式会社 POOLFILMS 清水 信也 様
アスピカホール敦賀 様
金井自動車工業 (株) 様

(株) あめりか屋 様
(株) 家高 様
(株) 前田産業 様
ハートホール橋詰 様
(有) ドゥエンタープライズ 様

< ボランティア >

散髪 高木理容 様
散髪 奥田理容 様

< 来訪・交流 >

来訪 やなぎの会 様
松尾貴臣 様
ぼっぼ保育園 (プレゼントのみ) 様
介護相談員 様
気比高校 3 年生 様
パラレル 様
福井県立敦賀高等学校 様
上野 説子様・松居 利佳 様
実習 敦賀市立看護大学 様
若狭医療福祉専門学校 様
福井大学教育学部 様

あかり苑・あゆみ

< 物品・金品寄付 >

平林 慎治 様
栗津 里子 様
佐野 直美 様
阪本 満 様
中西 英俊 様
腹巻 美奈子 様
加藤 亜紀 様
山本 直行 様
ニッ矢 久江 様
安部 謙治 様
山口 智子 様
中村 孝也 様
寺腰 俊雄 様
西澤 美樹 様
(有)渡辺石油
板底 祐一 様
加藤 喜代子 様
武石 正代 様
美尾谷 隆 様

< ボランティア >

散髪 さわと理容店 様
施設内草刈り 平林 慎治 様
栗津 里子 様

< 来訪・交流 >

かき氷屋台出店 とうごう緑日 様
マジックショー 上田久雄 様
プレーメンコア 様
パラレル児童皆様
福井県老人福祉施設ゲートボール大会

ひなた・いっぶく

< 物品・金品寄付 >

藤田 勇人 様
一瀬 達宏 様
松坂 勝 様
澤 信一 様
有限会社渡辺石油 様
松山 元基 様
澤野 悦子 様
山本 露香 様
スーパーラムー 様
南薬局 様
片岡 憲子 様
濱 絵里 様
岩崎 マサ 様
林 テル 様
古崎 洋子 様
西尾 千壽子 様
岸本 拓哉 様
泉ヶ丘病院 南 様
岸本 和義 様
中島 富美子 様
岡本 博治 様
熊谷 廣子 様
西村 さちよ 様
木田 文晴 様

< ボランティア >

傾聴ボランティア 奥村 周代 様
やなぎの会 伊原 八千代 様

まんざく

< 物品・金品寄付 >

久岨島 留美 様
明治安田生命 様
澤崎 晴彦 様
幸光 美恵子 様
辻 典子 様
田辺 正行 様
公文名地区
林 由美子 様
幸丈 園美 様
都築 真弓 様
平川 美由紀 様
藤本 和子 様
仲野 宏幸 様
下町 文子 様
川端 祐子 様
木村 美紀 様
本田 礼 様
泉が丘調剤薬局 様
和田 武志 様
奥村 昇 様
濱野 良幸 様
和田 武志 様
斎藤 恭子 様
仲野 宏幸 様
森下 恵子 様
樹本 由美子 様
林 塁 様
高江 千夏 様
林 恵子 様
山崎 悟 様

< ボランティア >

傾聴ボランティア 奥村 周代 様

野坂の郷

< 物品・金品寄付 >

三木 秀夫 様
日本キリスト教団敦賀教会 様
野坂の郷後援会 様
田中 高代 様
野坂の郷保護者会 様

パラレル

< 物品・金品寄付 >

ゆうあい倶楽部 様
(株)アスフリーク 様
敦賀みなとライオンズクラブ 様

< 来訪・交流 >

交流 (株)アスフリーク 様
バティスリーウフ 様
シゲズキッチン 様
home sweet home 様
703GO 様
Startin churro 様
Calme 様
もでな。 様
fufufu_yamamoto 様
平凡珈琲 様
こひる 様
Sparfle 様
umashikate 様
敦賀みなとライオンズクラブ 様
濱岡博子 様
ボランティア体験 福井県立敦賀高等学校 様
敦賀気比高等学校 様
福井県立若狭東高等学校 様

神宮前ぼっぼ

< 物品・金品寄付 >

堂田 展江 様
堂田 恵 様
川口 正人 様
小川 三恵 様
足利 美砂 様
中村 さやか 様
山田 智恵美 様
稲倉 智世菜 様
職員の皆 様
(有) ドゥエンタープライズ 様
福井県基準寝具 (株) 様

ななクリニック・法人本部

< 物品・金品寄付 >

福井銀行 様
(有)水嶋建築設計 様
福井県基準寝具(株) 様
(有)読売新聞 様
日章土地 様
アジアケアユニオン アジア介護協同組合 様
(株)エコシステム 様
池田 様
川口電気(株) 様
(有)ドゥエンタープライズ 中東 様
(株)Shift 代表取締役 岡本 様
西予総合福祉会 様
福井トヨタ 敦賀駅前店 様